

2022年11月04日

【格付維持】

東北大学

発行体格付： A A + [格付の方向性： 安定的]

格付投資情報センター(R&I)は上記の格付を公表しました。

【格付理由】

1907（明治40）年に3番目に設立された帝国大学を前身とする国立大学。民間及び自治体などから多額の寄附により創設され、発展してきた。国内有数の総合研究大学として数々の独創的な研究成果を上げ、各界で多くの指導的人材を輩出している。文部科学省所管の国立大学法人であり、指定国立大学として日本の教育研究活動を先導する機能を担う。教育政策上の極めて高い重要性に加え、東北大学自体の事業基盤の強さを格付に反映している。

大学を主とする高等教育機関は教育と研究、地域貢献を通じて社会に役立つ公共財として大きな役割を担う。特に国立大学は高等教育の実行機関として政策上の重要性は極めて高い。財政上の制約がある中でも政府は10兆円規模の大学ファンドを創設し、研究力強化を図る方針だ。国立大学法人の自律的経営に向け、政府は経営裁量の拡大につながる規制緩和を進める予定で、その内容に注目している。

東北大学は建学以来、独創的研究による学術的栄誉、半導体レーザー、フラッシュメモリの発明など、新たな価値創造や社会変革に貢献しており、教育・研究力は極めて高い。附属病院は大学病院の中でも古い歴史を持ち、各種先端設備と評価の高い医療サービスを強みに、コロナ下でも収支は安定している。「臨床研究中核病院」の認定を受け、高難度疾患の臨床研究や教育に対応する病院として知名度が高い。

青葉山新キャンパスではナノ単位の分子・原子を観察できる次世代放射光施設（ナノテラス）の建設が本格化している。新材料やデバイス、創薬研究など多分野での活用が期待され、隣接地ではサイエンスパークの整備も進んでいる。東北大を含めナノテラスを活用する企業や研究グループが入居し、新たな社会価値の創造拠点になることを目指している。大学は重要な公共財であり、教育・研究を通じた成果を価値化して資金を捻出し、成長するモデルケースになる可能性があり、その成否に注目していく。

産業界と緊密な関係を築いており、2021年からは「共創研究所」制度をスタートさせた。企業の研究開発・人材育成機能を大学が協働して担うことを目的としている。大手素材企業や輸送機メーカーなどを中心に10件以上の拠点を設けることに成功し、産学連携活動が一段と緊密化している。若手研究者の育成や外国人研究者の受け入れにも積極的で実績を残している。総長を補佐する統括理事の設置、高等教育に関する知見が豊富な外国人アドバイザー5人の任命など、経営改革に積極的に取り組んでいる。

【格付対象】

発行者：東北大学

名称	格付	格付の方向性
発行体格付	AA+（維持）	安定的



NEWS RELEASE

信用格付に関わる事項

信用格付業者 登録番号	株式会社格付投資情報センター 金融庁長官（格付）第6号 直近一年以内に講じられた監督上の措置は、ありません。
主任格付アナリスト	喜多 総治郎
信用格付の付与について 代表して責任を有する者	丸山 博哉

信用格付を付与した日	2022年11月04日
主要な格付方法	政府系機関等の格付の考え方 [2019. 11. 12] 事業法人等の信用格付の基本的な考え方 [2021. 06. 01] 学校法人 [2021. 05. 31]
上記格付方法は、格付を行うにあたり考慮した他の格付方法とともに以下のウェブサイトに掲載しています。 https://www.r-i.co.jp/rating/about/rating_method.html	
評価の前提は、以下のウェブサイトの格付付与方針に掲載しています。 https://www.r-i.co.jp/rating/about/rating_grant.html	
格付符号とその定義は、以下のウェブサイトに掲載しています。 https://www.r-i.co.jp/rating/about/definition.html	
格付関係者	東北大学
注 格付関係者は、金融商品取引業等に関する内閣府令第三百七条に基づいて、R&Iが判断したものです。	
利用した主要な情報 品質確保のための措置	決算書類、開示情報、格付関係者から入手した情報等 公認会計士の監査済みである、またはそれに準じた信頼性が確保されている決算書類であること。一般に開示された、またはそれに準じた信頼性が確保されている情報であること。格付アナリストが妥当性を判断した情報であること。
情報提供者	格付関係者
信用格付の前提、意義及び限界 R&Iの信用格付は、発行体が負う金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性(信用力)に対するR&Iの意見です。R&Iは信用格付によって、個々の債務等の流動性リスク、市場価値リスク、価格変動リスク等、信用リスク以外のリスクについて、何ら意見を表明するものではありません。信用格付は、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではありません。また、R&Iは、明示・黙示を問わず、提供する信用格付、又はその他の意見についての正確性、適時性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、いかなる保証もしていません。 R&Iは、信用格付を行うに際して用いた情報に対し、品質確保の措置を講じていますが、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&Iは、必要と判断した場合には、信用格付を変更することがあります。また、資料・情報の不足や、その他の状況により、信用格付を取り下げることがあります。 利息・配当の繰り延べ、元本の返済猶予、債務免除等の条項がある債務等の格付は、その蓋然性が高まったとR&Iが判断した場合、発行体格付又は保険金支払能力とのノッチ差を拡大することがあります。 一般に投資に当たって信用格付に過度に依存することが金融システムの混乱を引き起こす要因となり得ることが知られています。	